



総領事新年のご挨拶

在デトロイト日本国総領事
和田 充広

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。本年
もどうぞよろしくお願い致します。

昨年は、日本文化関連行事が目白押し
で記念すべき一年となりました。7月には
デトロイト・シンフォニー・オーケストラ
が約20年ぶりに日本で公演し、9月には
スナイダー・ミシガン州知事が、滋賀県
にて三日月県知事と共に本年迎える滋
賀県とミシガン州の姉妹都市交流50周
年に向けた一連の祝賀行事のキックオフ
イベントを行いました。さらに、11月
にはノバイ市のミシガン州立大学敷地内
にて桜ガーデン着工セレモニーが行われ、
今年の春に17本の桜と茶室を含む日本
庭園が開園予定であることが発表されま
した。そして、中でも最も盛り上がった
のは、JBSDを中心とした日系企業からの
寄付により開設されたデトロイト美術館
における常設の日本ギャラリーオープン
だと思います。オープン時には、日本から
訪れた多くの伝統文化の師匠等による実
演がなされ、最初の週末だけで7,000人
以上の来場がありました。皆様の中にも
ご来館された方が多くいらっしゃったの

ではないかと思います。また、これらに
加えて、ノバイやサギノーで毎年開催さ
れている日本祭りなど日本関連行事は数
多くありますが、このような日米草の根
交流は、JBSDやJSDウィメンズクラブを
始めとする日本人コミュニティの方々の
様々な活動のもとに成り立っているもの
です。昨年9月には、ウィメンズクラブの
長年に亘る取り組みに対して外務大臣表
彰が授与されましたが、改めまして、日
本人コミュニティの皆様の日頃からのご尽
力に心から敬意を表すると共に深く感謝
申し上げます。

さて、日米関係に目を向けてみますと、
昨年はトランプ大統領が就任し、新たな
政権運営が始まりました。NAFTA再交
渉、TPP離脱、税制改革など米国の歩む
道も変わりつつありますが、グローバル化
が進み、北朝鮮による脅威が高まる中で、
日米経済関係・日米同盟が引き続き重
要性を増していくことには変わりありま
せん。安倍総理とトランプ大統領の間
にはしっかりと信頼関係が構築されて
いますが、日米関係の更なる発展のため
には、両首脳によるトップレベルのみな



らず、草の根レベルでの日米交流の重要
性は益々増えています。総領事館としまし
ても、日本人コミュニティの皆様のお力を
頂きながら、日米草の根交流を深め、日米
関係の基礎を固めていくために最大限
努力していく所存です。

また、領事出張サービス、旅券や戸籍
等の各種証明関係事務の更なる充実・
向上に努めるとともに、安全に関する
情報についてはタイムリーに発信し皆
様が安心して生活できる様に安全対策
に万全を期して参ります。皆様の生活
に役立つ情報は、ホームページ、メール
マガジン、Facebookなどを活用してお伝
えていますので、是非ご覧ください。
また、お気づきの点等ございましたら、
遠慮なくご連絡、ご指摘ください。

最後に、今年一年の皆様のご健勝と
ご多幸を心より祈念申し上げまして、
新年の挨拶とさせていただきます。

今月のViews

在デトロイト日本国総領事館提供によるトピックス ... 2
リレー随筆: ミシガンでキャンプと出会って ... 3
スカラシップ受賞者エッセイ ... 4-5
経営管理セミナー報告 ... 6

JBSDチーム対抗ボウリング大会 ... 6
補習授業校新規採用説明会ご案内 ... 7
イベント情報 ... 7
編集委員の独り言 ... 7

デトロイトりんご会補習授業校 講師募集中! ... 7
今後のJBSD 行事予定 ... 8
事務局長だより ... 8

在デトロイト日本国総領事館提供によるトピックス

総領事館近況報告

去る11月16日(木)、総領事公邸にて天皇誕生日祝賀レセプションを開催しました。これは、毎年総領事館において我が国のナショナル・デーとして開催しているもので、今年も、JBSDなどの日系企業関係者を始めとして、州議会議員や州政府、大学関係者など約200名の方々に出席頂きました。

当日は、デルフィア湖月さん(日系米国人高校生)による日米両国歌斉唱に始まり、和田総領事からの挨拶、ミシガン・オハイオ両州知事から天皇陛下への祝意のメッセージと続き、最後に、サンディ・バルーア・デトロイト地域商工会議所会頭の音頭により乾杯がなされた後に懇談となりました。



和田総領事による挨拶



和田総領事夫妻と来場客(生け花の前で)

総領事館としましては、このようなレセプションの機会を活用して、現地のアメリカ人に対して日本の様々な良いところをアピールしています。今年は、日本酒の「南部美人」を用いて乾杯を行った他、日本のお米を使用したウナギの混ぜご飯・松茸ご飯といった日本食や日本のビール・ウィスキー、また、滋賀県の近江茶を使用した特製カクテルやデザートを

来場者に提供しましたところ大変好評でした。さらに、会場内は、いけばなインターナショナルデトロイト支部による生け花や盆栽協会提供の白樺の盆栽で彩られ、来場者の目を楽しめるとともに、11種類の日本酒の試飲、訪日観光、花王による製品紹介などのブースが設置され、多くの来場者の関心を集めており、日本をPRする良い機会にもなったと思います。

領事・旅券手数料 (2017年4月1日～2018年3月31日までの料金)

- ・外貨貨幣換算率の改定に伴い、2017年4月1日から領事・旅券手数料は以下のとおりとなりました。なお、領事・旅券手数料は毎年4月1日に改定されます。
- ・手数料は、受領時にお支払いください。パーソナルチェック、クレジットカードはご利用いただけませんのでご了承ください。
- ・お釣りのないようにご準備をお願いいたします。

1. 旅券

- | | |
|---------------------------|-------------|
| ① 一般旅券(10年有効) | US \$145.00 |
| ② 一般旅券(5年有効: 12歳以上) | US \$100.00 |
| ③ 一般旅券(5年有効: 12歳未満) | US \$55.00 |
| ④ 一般旅券の記載事項変更旅券 | US \$55.00 |
| ⑤ 一般旅券の査証欄の増補 | US \$23.00 |
| ⑥ 渡航書の発給 | US \$23.00 |

2. 証明

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| ① 在留証明 | US \$11.00 |
| ② 出生・婚姻・死亡等身分上の事項に関する証明(英文) | US \$11.00 |

- | | |
|----------------------------|------------|
| ③ 翻訳証明 | US \$40.00 |
| ④ 署名証明(官公署に係わるものを除く) | US \$15.00 |
| ⑤ 運転免許証抜粋証明 | US \$19.00 |
| ⑥ 旅券所持証明 | US \$19.00 |

3. 査証

- | | |
|--------------------------------|------------|
| ① 一般入国査証 | US \$27.00 |
| ② 数次入国査証 | US \$55.00 |
| ③ 通過入国査証 | US \$6.00 |
| ※ ①～③は、査証申請人の国籍によって異なる場合があります。 | |
| ④ 再入国の許可の有効期間の延長 | US \$27.00 |

■ お知らせ ■

Facebookで、当館の活動紹介のほか、日本関連情報やミシガン/オハイオ州の耳寄り情報も発信していますので、是非「いいね!」をお願い致します。
Facebook ページ ▶ www.facebook.com/cgj.detroit

在留邦人の皆様に有益と思われる情報や各種お知らせをメールでお送りするメールマガジンを配信していますので、是非ご登録ください。
詳細はこちら ▶ www.detroit.us.emb-japan.go.jp/jp/newsletter

旅行や海外出張される場合は、是非「たびレジ」に登録を!!
旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全

情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。

詳細はこちら ▶ www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg

四半期毎にミシガン州とオハイオ州内の治安情勢を掲載しています。在留邦人の皆様が多く居住する地域における犯罪発生件数や最近の犯罪傾向などを掲載していますので、ご確認をお願い致します。
詳細は当館ホームページ、生活・安全情報内の「海外安全対策情報」をご確認ください。

生活・安全情報 ▶ www.detroit.us.emb-japan.go.jp/jp/life/safety.htm



ミシガンでキャンプと出会って

Meiden America, Inc.

ながよし だいじ
永芳 大治

新年あけましておめでとうございます、Meiden America, Inc.の永芳と申します。2009年10月に着任しミシガン駐在9年目を迎えました。初めての海外出張もミシガンでその翌年から駐在が始まり、今では入社後を考えると日本よりミシガンで働いている方が長くなってしまいました。出張で他州にも行く機会があるのですが、ミシガンに住むことができ良かったと感じています。特に自然の豊かさや動物とのふれ合いを家族と一緒に味わえることが一番の楽しみです。冬の厳しい寒さは少し嫌になりますが、その厳しさがある分、素晴らしい夏を思いっきり楽しむことができるのだと思います。

そんな自然が大好きな我が家では、夏にキャンプに出かけることが恒例行事となっております。今年でキャンプ歴は5年目で、主にミシガンのState parkのキャンプ場に行き休暇を楽しみます。RV泊ではなくテント泊です。いつも隣に停めてあるRV車をうらやましそうに見ながら、テントを立ち上げます。ミシガンにはきれいな湖や川のあるキャンプ場がたくさんあり自然を満喫できます。大人は日頃の喧騒から離れひと時の安らぎを、子供はビーチでひたすら、穴を掘っては埋め、掘っては埋めを繰り返して楽しめます。ココア片手に星空を眺めるのも最高です。今回はこれまで私が行ったキャンプ場の中で個人的に良かったところをここで紹介したいと思います。

3位 Leelanau State Park

Traverse Cityから北に進み、岬の行き止まりにあるキャンプ場です。車通りが少ないのでロードバイクを持ってきてい

るグループが多かったです。このキャンプ場には電気やシャワールームが無く、RV車では無いキャンパーはシャワーや水洗トイレを利用することができません。岬の行き止まりということもあってか静かな時間を過ごすことができます。この公園のシンボルはGrand Traverse Lighthouseです。日中は多くの観光客が灯台を訪れ、夕方になるとみんな灯台の周りに集まりミシガン湖に沈む夕日を眺めます。灯台の裏には石でできたビーチがあり子供たちはここで泳ぎ、大人は綺麗な石を探して過ごしました。

2位 Twelve-mile Beach Campground

スペリオル湖に面したビーチ沿いのキャンプ場です。ここはビーチ側と森側があり、我が家はビーチ側のサイトに宿泊しました。ビーチ側のサイトからはそれぞれがビーチに直接アクセスできるのでプライベートビーチのような気分を味わえます。1つのサイトが広く、また隣とは離れておりプライバシーが保たれています。Independence dayに訪れたのですが、北のスペリオル湖は昼間でも物凄く冷たかったのを覚えています。他で泳いでいる方も少なく、家族では私以外湖に入りませんでした。ビーチの砂がサラサラで足に気持ちよく、時々綺麗な石が落ちていました。その日の夜は35°Fまで下がり、寝袋の上から毛布を掛けて寝ました。星空は小さい星粒まで見えて、ぎっしりで、とても綺麗でした。このキャンプ場は予約不可の先着順でチェックインするため、希望の日程・サイトに入れるかどうかは運次第です。チェックアウト前後にはどかが空くか徘徊する車が多くなります。私たちは前の組のチェックアウト直後に到着し入ることができました。ここもシャワーがありません。



Leelanau State Parkでの夕日

1位 Ludington State Park

ここは、Top 100 Michigan Campgroundというサイトで1位になっていたので行ってみました。ミシガン湖沿いの長いビーチを持つキャンプ場で、シャワー・トイレ・売店やアクティビティなどが充実しており、とても快適に過ごせました。サイトの幅は狭めで人通りが多く少し賑やかに感じます。ここも灯台があり、犬・子供を連れて歩いて行ってみました。夏の暑さでバテてしまい、帰りにはみんなをカーゴに乗せ、砂の道を引っ張って帰ったのを覚えています。

いつも友人から「キャンプに行って何をするの?」と聞かれます。答えはいつも「特に何もしない」です。日が昇ると起きて、犬と散歩・ビーチで遊び、お腹が空いたらご飯を食べ、日が暮れたら焚火してマシュマロ焼いて寝るくらいです。これは普段の生活と比べて特別何もしないのですが、実はキャンプでこれをやるには事前の準備と仲間との協力が大切だと気づかれます。すべてが予定通り上手くいくことが珍しく、いろんなトラブルにも遭遇します。そんな時、普段の生活はいろんなことに恵まれているということを実感し気持ちをリセットすることができます。携帯の電波も悪いですし時計もほとんど見ません。それでもあつという間に時間が過ぎてしまいます。心から楽しんでいる証拠です。そんな過ごし方もたまにはいかがでしょうか? これを見ていただいたキャンプ好きの方、おすすめのカンパ場について話しませんか。

次回はミシガン赴任2回目のAxxis Corporation 足立篤紀さん、お願いいたします!

JBSD 基金 スカラシップ受賞者エッセイ

特別寄稿: 奄美大島 ～瀬戸内 & 加計呂麻での思い出～

2016年JBSD基金のスカラシップを受け、JCMUの年間日本留学を終えたアナさんより、日本での数ある思い出の中からこちらの旅行記をご寄稿いただきました。帰国後は、日本企業でインターンをするなど積極的に経験を生かした活動をされています。

Japan Center for Michigan Universities
Anna Koerber

Being a student at Japan Center for Michigan Universities is tough. During finals the stress is high to give a perfect presentation in Japanese for 5 minutes. To distract myself from the pressures I found myself dreaming of beautiful warm places in Japan. Googling this subject one night I saw the islands of Amami Oshima. That same night I booked a plane ticket and room with a host family in Setouchi. As an objective I wanted to stay somewhere I could experience the local island life, not tourist life. Therefore, until the day I arrived, there were no plans on how to navigate from the top of the island to the bottom of the island. Only, having no idea how to travel across the island did not concern me. My only thought was, "I will be sure to make a story of it." Everyone who goes abroad always has these amazing stories, but 8 months in Japan and I didn't have one. This trip became mine.

Upon arrival I was able to find a bus information center. All excited to have a ticket in stow and ready for the journey, outside was raining. It wasn't the ideal warm weather start I had envisioned, but none the less exciting. I tried getting on three busses and each time I was told "this is not the 'Shima Bus' please wait." Waiting for the bus took me back to times when I was a young child. Around Christmas there is so much excitement built up for opening presents. That final night you cannot sleep you are so full of anticipation to open those presents, a smile is glued to your

face. That was me waiting for the bus. I knew once I got on this bus the anticipation of travel would wear off and reality would come back. With only a picture of the building I would be staying at and the name of the city; I found worries creep in my mind. Every few minutes I was the one passenger who asked, "What's the name of this city? How far to Setouchi? Where do I transfer busses? Please help me." What an amazing bus driver I had. She was very kind and considerate of my Japanese level. I ended up transferring half way through my journey where I waited for another two hours. The next bus I boarded, there she was again. Continuing on my journey I loved to look out the window. It was a mix of tall Spider Monkey trees covering the mountains or waves crashing over long sandy beaches. Depending on what you could see I would hop from side to side in the bus for the best view outside. Like a child I couldn't contain the excitement and awe I felt being in Amami. It was a kind of Japanese culture I had not experienced.

It was sunset by the time I arrived in Setouchi. Setouchi comes from the "Seto Inland Sea" since it's a port city they have the most breathtaking sunsets. My life felt like a movie with myself as the lead character. Confusion came as the bus driver searched for my host family. Many passengers on the bus stayed behind because they were concerned I was not going to find them. After the driver found a phone number, I was greeted by the manager of the rooms. To my surprise he spoke perfect English. He never studied abroad, only "Memorized all the words in [his] school's English textbooks." My roommate arrived the night before; older than me he was also Japanese. It came to my attention no American ever visited the lower regions of the island I was staying. I was the first American many people had seen. This led to many interesting experiences down the road. For example, children running up to me asking questions in the streets, cars driving by taking pictures, older citizens waiting in the street to flag me down and more.

Since it was so late, my host family prepared what American's call a "five course meal" and all the most delicious food I've had in Japan. I could not tell you what the names of the food was, but only



trust me when I say it was the best food you will have in Japan. The first night was perfect. I had made it to my host family in one piece. My room was an old English Cram School building, not luxurious, but perfect for me. I had a balcony and spent a large portion of the night watching the peaceful port city sleep. The only sounds to be heard were very loud frogs across the street. My roommate found these frogs unpleasant, but I saw it as the beautiful nature to be found in Amami.

Squinting my eyes I rolled over in bed still exhausted from yesterday's travels. Hearing the scuffles of my roommate up I decided I had to yank the covers off too. We started off as strangers, but simply after one night I had already agreed to go mountain hiking at night for starry pictures. It simply boiled down to: "he has a car, he seems nice, and he was fun to talk to, let's be friends." On separate ferry boats we both departed to the island of Kakeroma. My destination was to the port of Ikemma in the southern region of Kakeroma and he went towards Seso. As the ferry was approaching the island I could see the massive mountainous terrain. Originally, I thought I would tackle the island on a bike. Reality shot the idea down. Looking into the water of Ikemma port it sparkled and shined a brilliant aqua teal blue color. Glancing up I noticed there was three busses waiting for passengers. Hanging back as people unloaded, a father and son approached me. He introduced himself as the tourism manager for Amami Island. I left the conversation with maps and ferry schedules, but no plan what to do next. So, I saw three old ladies get on a bus and decided to jump on. The only thought was "old ladies know what happens everywhere and the best places to go. Why not ask them for advice?" Talking was difficult because they used traditional language on the



island, Honyu. We could communicate, but not past much basic communication.

It felt awkward being alone in the bus with the driver. I cannot recall who broke the ice first, but the subject came up of how I found Kakeroma. "Why did you come here? How can you speak Japanese?" I continued to explain how I found a beautiful picture online and I wanted to go somewhere warm where I could experience unique Japanese culture. From that point on he would say, "Look, please get out. There is a beautiful picture, please take a picture." He wanted to make sure I enjoyed my time on Kakeroma and got the best pictures. We talked about his family, tourism, fun activities, life on the island and pretty soon he felt like a friend. Half an hour passed as we continued our road trip together up to the next port. There was a vending machine along the way where he kindly bought me a drink. During our drink break he stepped away to make a phone call. Smiling when he came back, he told me that his wife and daughter were coming. Confused I pondered this for a second. "What is going on? Did I say something wrong? Why is his wife coming? Did the van break down?" Then I met his wife and daughter. She greeted me with a hug and "Hello, I'm Risa. Please let me show you around today." I remember them smiling so much just because I could talk to them and wanted to spend time with them. All day I was continually amazed by the generosity and kindness they showed me. We traveled to many tourist locations such as water falls, beaches, whale lookouts, went hiking and more. However, the best memories came when I was able to interact with the locals and my 'one day host family.' They taught me about the history of the island. They showed me local shops and gardens. One shopkeeper had a son about two years old. She would give him a cup noodle to

give customers. The boy looked blankly up to his mother as he started to peel off the wrapper on the noodles. She smiles and says, "next year he will be ready." How she said it I knew she was very proud of her son. I felt happy to see how much love the shopkeeper had for her son.

Mid-day we made a stop at a house. When I entered the house my host mom told me it was her father and mother-in-law's residence. They also greeted me with hugs and served me traditional island sweets. The closest I could identify the sweet to was hardened sugar can squares. After introductions, my host mom was asked to perform the traditional music of Amami. Some may say it was no different than a banjo performance, but to me it was beautiful. The way she sang and played her instrument held so much emotion it took a lot of control to contain how blessed and fortunate I felt to have the opportunity to meet them. At the end of her performance I wanted to give her a hug in thanks. My time in Amami had developed further into a plot in a Hallmark movie. All day the kindness of people on these islands never stopped amazing me.

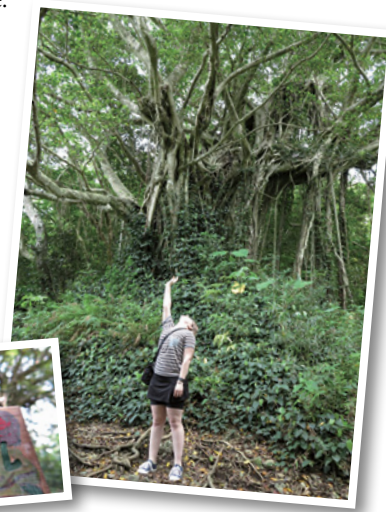
Night began creeping upon us as the sunset descended. Saying goodbyes is always tough, but saying goodbye to my "one day host family" was harder because I did not know when I would see them again. Riding back I saw a sailboat in the distance and found myself dreaming of living on these islands. Thinking of all I had learned from my Kakeroma host family, I want to know more about the history and culture of the Amami Islands.

Back in my room I dropped my bag and fell asleep. I woke to my roommate sighing heavy in relief. "Anna, you scared me. I thought you got lost and I was worried I left you behind." A light bulb went off when I remembered we had agreed



to meet at Koniya port to go mountain viewing. Apologizing several times bowing, I repeated "sumimasen deshita." He laughed at my sincere attempt to perform the proper etiquette; my English accent somehow was entertaining.

Standing outside on Mount Kochi, I kept bouncing my feet and peeling my eyes open hoping to adjust to the darkness fast. The habu snake was known for its nighttime travels and I was not about to be a snack. Never the less, I pulled out my camera and tried to capture the beauty of the night sky in Setouchi. The silhouettes of Spider Monkey trees and telephone poles were the only visible shapes. I wanted to spend all night just looking up. Trying to take in and memorize every detail about the night sky, I found myself reflecting on the day. Everything about the trip was perfect. While I had come across kindness before in Japan, it never felt more hospitable than the people of Amami. Strangers genuinely cared about my well-being. They offered food, housing, transportation, and most importantly a welcoming like family and friends. Leaving the people, the sounds, the smell, and the scenery caused my heart to ache, but without a doubt I know because of this I will return again. I fell in love with this small island and its culture. I want everyone to know how kind, generous, funny, loving, and open-minded the people of Amami are. They have touched my life forever and I am eternally grateful to have met these people.



会員の皆様から頂いておりますJBSD 基金へのご寄付は、ミシガン州学生への日本留学スカラシップや、地元教育機関、NPO団体の慈善活動などを支える助成金として、1997年より毎年様々なかたちで地元へ還元しています。

2018年もJBSD基金へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます

JBSD イベント報告

JBSD 商工部会・デロイト共催 経営管理セミナー

去る10月27日、Marriot Livoniaにおいて、JBSD商工部会・デロイト共催の経営管理セミナーが開催されました。

セミナーは二部構成で、休息、質疑応答を含めて、午後1時30分から4時30分の3時間にわたって行われ、日系企業にとって知っておくべきトピックスを、それぞれの専門家により解説されました。具体的な項目は以下の通りです。

本セミナーに関するお問い合わせ先:

重光 哲郎 (Tetsuro Shigemitsu)

Tel: 313-396-3291

E-mail: teshigemitsu@deloitte.com



第一部: サイバーセキュリティリスク

• サイバーセキュリティリスク及びその対応策

講師: 黒田 俊平氏 (Deloitte ニューヨーク Advisory シニアマネージャー)

Internet of Things, The evolution of threats to connected devices, Cyber risk in auto industry, Managing risk

第二部 会計・税務最新トピックアップデート

• トランプ政権による税制改正と決算への影響、タックスプランニング

講師: 小林 康慶氏 (Deloitte デトロイト税務マネージングディレクター)

現在の米国税法と税収の実態、トランプ政権下での法人税制改正動向、税制改正と決算への影響、税制改正に向けたタックスプランニングの検討、短期出張者に関する183日ルールについて

• 収益認識基準 (ASC606) のポイント解説

講師: 高木 慶一郎氏 (Deloitte デトロイト監査シニアマネージャー)

講師: 丸山 晃正氏 (Deloitte デトロイト監査シニアマネージャー)

High-Level Overview of ASC606, Topics in the Automotive Industry, Implementing ASC606

2017年第2回JBSD チーム対抗ボウリング大会 観戦記

恒例のJBSDチーム対抗ボウリング大会が、去る11月19日(日)にCanton市の“SUPER BOWL”にて開催されました。23チーム、106名にご参加いただき、大変盛り上がりしました。

当日は、良い天候にも恵まれ、皆様のご協力により予定通り開始することができました。ゲームが始まると、皆様思い思いに楽しまれ、お知り合いの方々のスコアを気にしたり、日ごろの練習の成果を思い切りぶつけたり、それぞれの楽しみ方で楽しいひと時を過ごされていました。

ゲーム方式は各チームの上位3名のスコア×2ゲームの合計を競うもので、9歳以下のお子様、12歳以下のお子様、女性の参加者に、それぞれハンディキャップを設けております。



AISIN-1の皆さん優勝おめでとうございます!

今回、見事優勝の栄冠を手にしたのは、1,159点を獲得されたAISIN-1の皆さんです。おめでとうございます。

上位6チームの得点は1,000点を超え、優勝争いはとてもハイレベルな戦いとなり、観ている人々を魅了するものでした。



ご参加いただいた皆様、大会の進行にご協力賜りまして誠にありがとうございました。次回の開催は、2018年2月を予定しております。次回もどうぞ皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加いただきますよう幹事一同お待ちいたしております。

(JBSDスポーツ部会: 長岡)



注：掲載のイベント情報に関しては、内容が変更される場合がありますので、必ずイベント主催者に確認して下さい。
また、掲載している内容に関し、いかなるトラブルが生じて、JBSDは一切責任を負いませんので予めご了承下さい。

特別イベント

2018年北米国際オートショー

North American International Auto Show 2018

Cobo Center, Detroit

1月14日(日)–28日(日)

※ 一般は20日(土) から28日(日)

9:00am–10:00pm (9:00pm 以降入場不可)

1月28日(日) 9:00am–7:00pm

(6:00pm 以降入場不可)

料金： 一般大人 \$14 (E-ticketあり)

シニア (65歳以上)

子ども (7–12歳) \$7 (当日券のみ)

6歳以下無料

問い合わせ：248-643-0250

www.naias.com

毎年恒例の全米最大デトロイト・オートショー。
各自動車メーカーの最新動向を知ることができる。

問合わせ：800-328-6550

www.showspan.com/ufd

全米最大の淡水フィッシング市場ミシガン。フィッシングに必要なすべての道具、ボート、サービス、情報が集まる。

アナーバー・レストラン・ウィーク

Ann Arbor Restaurant Week

Downtown Ann Arbor

1月14日(日)–19日(金)

料金： ランチ \$15・ディナー \$28

問合わせ：734-668-7112

http://annarborrestaurantweek.com

アナーバーのダウンタウンにある多くのレストランでこの期間、上記のディスカウント料金で3コースの食事(または相当コース)を楽しむことができる。参加しているレストラン詳細はウェブサイトにあるので予約は早めに。

その他地区ウィンターフェスティバル

• Plymouth Ice Festival

1月12日(金)–14日(日)

• Village of Rochester Hills-

Fire and Ice Festival

1月19日(金)–21日(日)

ステージ

2CELLOS

Fox Theater, Detroit

1月23日(火)

料金： \$37.50–\$57.50

問合わせ：313-471-6611

www.olympiaentertainment.com

ロック・ポップをチェロで力強く演奏するデュオがフォックスシアターにやってくる。クラシックを軸として修行してきた二人の演奏は年齢問わず人気。

フィッシングショー

The Ultimate Fishing Show

Suburban Collection Showplace, Novi

1月11日(木)–14日(日)

木： 1:00pm–9:00pm

金： 11:00pm–9:00pm

土： 10:00am–8:00pm

日： 10:00am–5:00pm

料金： 大人 \$10

子ども \$4 (6–14歳)

5歳以下無料

ウィンターフェスティバル

フランケンムース・ゼンダーズ・スノーフェスティバル

Zehnder's Snowfest

Frankenmuth, MI

1月24日(水)–29日(月)

問合わせ：800-863-7999

www.zehnders.com

毎年恒例となっているこのフェスティバルでは、氷の彫刻のコンペが行われ、子どもたちの体験彫刻も。週末はポニーライドや生演奏などもあり。ゼンダーズにはインドアプール、宿泊施設もあり家族で楽しめる。

今後の人気イベント

Fox Theatre

www.olympiaentertainment.com

• 3月1日–4日 PAW Patrol Live!

• 3月30日–31日 Sound of Music



デトロイトりんご会補習授業校

講師募集中!

デトロイトりんご会補習授業校では、明るく元気で子供大好き、やる気溢れる講師を募集しています。

詳細は www.jsd.org/teacherwanted をご覧ください。

※QRコード読み取り可能な携帯電話で右記コードを読み取るとりんご会ウェブサイトへジャンプします。



ノバイメドウズ校

25345 Taft Rd., Novi, MI 48375

新規採用説明会ご案内

「子どもたちの輝くような笑顔に 囲まれてみませんか？」

- 研修システム、新任講師サポート制度あり
- チャイルドケアあり・欠勤手当あり・通勤費あり
- 教員免許保持者手当であり
- 勤続年数に応じた表彰制度や皆勤賞等の制度あり
- 常勤講師として採用された場合、お子さん1名につき学費の約40%(奨励金)を免除

日 時：1月13日(土) 1:00pm–2:00pm

会 場：ノバイメドウズ校北校舎 514 教室

問合わせ：E-mail: iinoue@jsd.org

Tel: 248-946-4697(内線200)

www.jsd.org

編集委員の独り言

昨年の Thanksgiving Day の休暇にアトランタとチャタヌーガを訪ねました。私にとって初の長距離ドライブとなり、心配していましたが全く問題なく、機会があればフロリダ往復も可能と自信を持ちました。

アトランタ観光の主目的は、「Margaret Mitchell House」「World of Coca-Cola」。有名な長編小説であり、映画化された「風と共に去りぬ」を彼女が執筆していた頃の住居がミッドタウンにあります。その時代の背景や佇まい、生い立ちから亡くなるまでの生涯を写真や家財、ガイドツアーの説明を通して知ることができます。World of Coca-Cola は博物館になっており、世界の Coca-Cola 商品の試飲も出来ますが、やはり飲み慣れたものが安心かな!? その後アトランタから2時間ほど離れたチャタヌーガという町を訪問。地底にできた滝「Ruby Falls」、7つの州が見渡せる「Rock City Gardens」は景色も良く楽しく過ごすことができました。帰りには、ダウンタウンにも立ち寄りチャタヌーガ Choo-Choo で休憩。

皆様も機会があれば訪ねてみてください。

T.K.



Japan Business Society of Detroit
42400 Grand River Ave.
Suite 202, Novi, MI 48375



今月のトピック

- 在デトロイト日本国総領事新年ご挨拶 1
- リレー随筆: ミシガンでキャンプと出会って 3
- スカラシップ受賞者エッセイ 4-5

Views views@jbsd.org(編集部)

皆様からのご意見、ご感想をお待ちしていますので
お気軽にお寄せ下さい。投稿も大歓迎です。

www.jbsd.orgでもViewsをご覧ください。

今後のJBSD 行事予定

January^{1月}

2018年JBSD 新年会

日 時: 1月28日(日) 12:30pm-4:00pm

場 所: Suburban Collection Showplace

参加対象: JBSD 法人会員社員・個人会員・

ウィメンズクラブ・りんご会・

それら会員家族と会員同伴者

料 金: \$70 (21歳以上)/\$60 (21歳未満)

チャイルドケア無料(定員50名)

締め切り: 最終申込締め切り 1月19日(金)



お申し込みについてはJBSD事務局ウェブサイト (jbsd.org) をご確認ください

ミシガンの小学4、5年生のお子さんをお持ちの方へ ミシガンの冬を楽しもう! COLD IS COOL! プログラム

Michigan Snowsports Industries Associationでは、スキーのおもしろさを知ってもらおう、寒い冬でも体を動かして楽しもうと毎年ミシガン在住の小学4年生、5年生の子ども達を対象にした Cold is Cool! プログラムを実施。これは、対象学年の希望者に Ski & Ride パスポートを発行するもの(\$20)でこのパスポートがあれば参加する25箇所のスキー場で最高3回分(各スキー場)のリフト券またはトレイルバスが無料になるという、スキーをより身近に、気軽に楽しんでもらおうというもの。(ただし、大人1名のリフト券購入要。大人1名につき対象学年の子ども2名まで使用可) 小学4年生、5年生のお子さんをお持ちの方は、ぜひこのプログラムを利用してみてはいかがでしょうか。

MSIA ウェブサイト(詳細): www.goskimichigan.org

事務局長日より

会員の皆様、あけましておめでとうございます。JBSDならびにJBSD基金は皆様からお預かりしている会費・ご寄付を使わせていただき、昨年も沢山の会員向け活動・対外向け活動を行いました。

会員向け活動は、当地での生活をより充実したものにしていただくことを目的として、会員とご家族のための各種イベントの実施や情報の発信をおこなってきました。JBSD新年会、インドアサッカー大会、マラソン大会、インドアテニス大会、日本祭り、青年委員会主催のバスツアーや季節のイベントなどを楽しんでいたのではないでしょうか。

いっぽう対外活動は、地元の方々に日本の文化への理解を深めていただき一人でも多く日本ファンの方が増えることを目指して活動を行いました。

中でも、デトロイト美術館における日本ギャラリーの開設と合わせて、デトロイト美術館と共催で実施した日本文化紹介イベント“JCDイベント”は、約45年の歴史の中でJBSDにとって新しい意味のあるイベントであったのではないかと思います。具体的には、デトロイト美術館との共催により同館が全ての会場を提供する中で実施したこと。もうひとつは、再開中で復興を遂げつつあるデトロイト地区において、美術館という場所を使って日本文化紹介の魅力を紹介することができ多くの来場者を楽しみながら日本への親近感を深めていただくことができたことではないかと思います。

本年も、商工・広報・文化・スポーツ各部会の委員の方々、青年委員会の方々と一緒に充実したイベントを目指していきたいと思っておりますので、一人でも多くの会員皆様のご参加をお願い致します。